

# 千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第17週 (4/20-4/26) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	17週	16週	15週	14週
小児科	18	18	18	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	28	28
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市					千葉県
		注意報	4/20-4/26	4/13-4/19	4/6-4/12	3/30-4/5	4/13-4/19
			17週	16週	15週	14週	16週
小児科	RSウイルス感染症		0	0	0	1	4
	咽頭結膜熱		1	0	0	0	4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		8	11	23	36	148
	感染性胃腸炎		17	13	19	25	106
	水痘		1	0	0	2	16
	手足口病		3	0	0	1	1
	伝染性紅斑		1	1	2	1	9
	突発性発しん		12	10	9	12	36
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	0
	流行性耳下腺炎		1	4	0	1	6
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1	1	2	6	4
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		0	0	2	1	8
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(31件)

※新型コロナウイルス感染症29件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	病原体の分離・同定及び薬剤耐性の確認	新型コロナウイルス感染症	/	10歳代から90歳代	病原体遺伝子の検出
	男性	70歳代	病原体の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定				

\*第17週は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件(5)、新型コロナウイルス感染症29件(89)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第17週のコメント

過去10年の同時期と比べて全て平均以下となっている。

<トピック>

<新型コロナウイルス感染症>

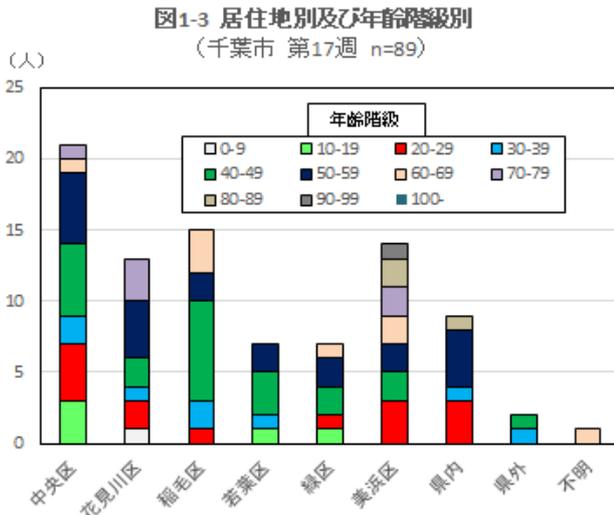
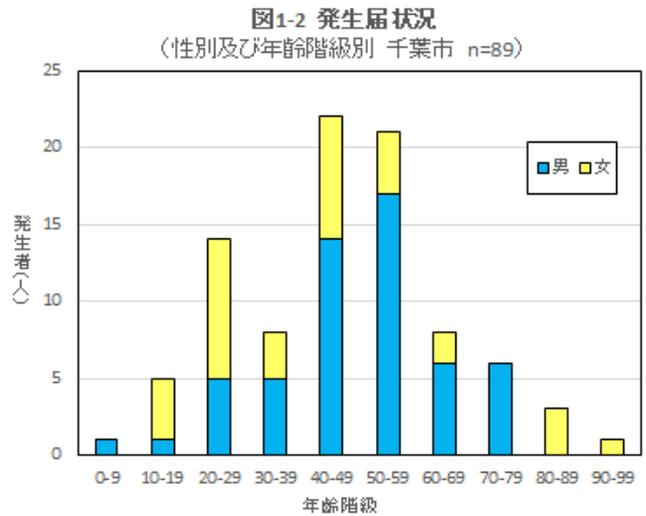
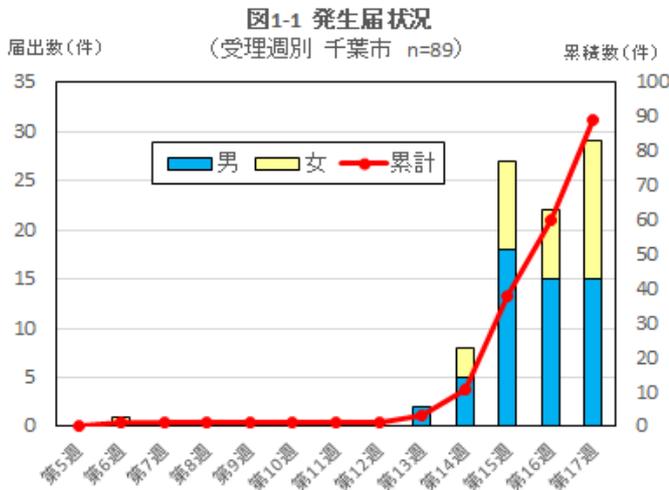
・発生届

第17週は10歳代から90歳代までの29件の届け出があり、合計は89件となりました(図1-1)。

性別では男性が55名(61.87%)、女性が34名(38.2%)で、年齢層は1歳代から90歳代まで、年齢中央値は全体で49.8歳で、男性は50.1歳、女性は49.3歳となっています。年齢階級別では40歳代(22名:24.7%)、50歳代(21名:23.6%)、20歳代(14名:15.7%)の順に多くなっています。男性は40歳代~50歳代の年齢層が占める割合が多いことに対して、女性は20歳代~40歳代の占める割合が多くなっています(図1-2及び表1)。

居住地別では、中央区(21名:23.6%)、稲毛区(15名:16.9%)、美浜区(14名:15.7%)の順で多くなっています(図1-3及び表2)。

症状は、発熱(71名:79.8%)、咳(39名:43.8%)、味覚障害(20名:22.5%)の順で多くなっています(図1-4)。現時点での主な症状を年齢階級別で見ると、発熱は10歳代を除く全ての年齢階級で発症の割合が高く、咳は10歳代と90歳代を除く年齢階級で発症の割合が約半数となっています。味覚障害は10歳代において発症の割合が最も高くなっています(図1-5-1~3及び表3)。



中央値	50.1	49.3	49.8	
年齢層	男	女	計	
0-9	1	0	1	1.1%
10-19	1	4	5	5.6%
20-29	5	9	14	15.7%
30-39	5	3	8	9.0%
40-49	14	8	22	24.7%
50-59	17	4	21	23.6%
60-69	6	2	8	9.0%
70-79	6	0	6	6.7%
80-89	0	3	3	3.4%
90-99	0	1	1	1.1%
100-	0	0	0	0.0%
計	55	34	89	100.0%
	61.8%	38.2%	100.0%	

表1 性別及び年齢階級別

年齢層	中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	県内	県外	不明	計
0-9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
10-19	3	0	0	1	1	0	0	0	0	5
20-29	4	2	1	0	1	3	3	0	0	14
30-39	2	1	2	1	0	0	1	1	0	8
40-49	5	2	7	3	2	2	0	1	0	22
50-59	5	4	2	2	2	2	4	0	0	21
60-69	1	0	3	0	1	2	0	0	1	8
70-79	1	3	0	0	0	2	0	0	0	6
80-89	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3
90-99	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
100-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	21	13	15	7	7	14	9	2	1	89
%	23.6%	14.6%	16.9%	7.9%	7.9%	15.7%	10.1%	2.2%	1.1%	100.0%

表2 居住地別及び年齢階級別

図1-4 症状別(重複あり)

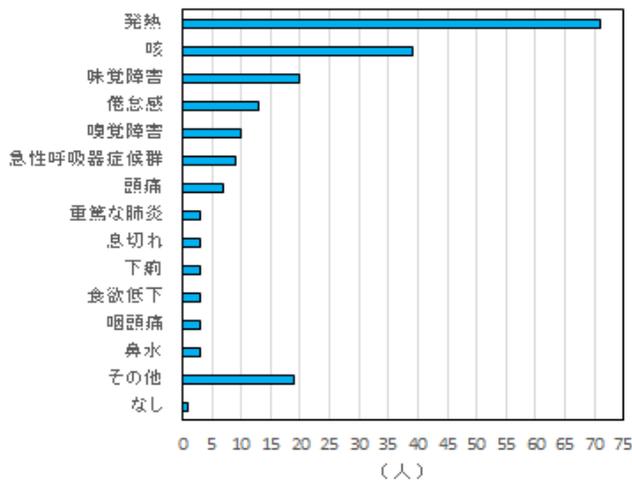


図1-5-1 年齢階級別の症状:発熱

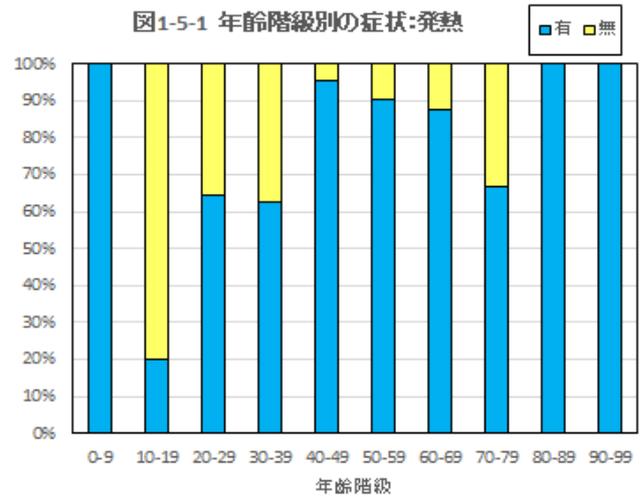


図1-5-2 年齢階級別の症状:咳

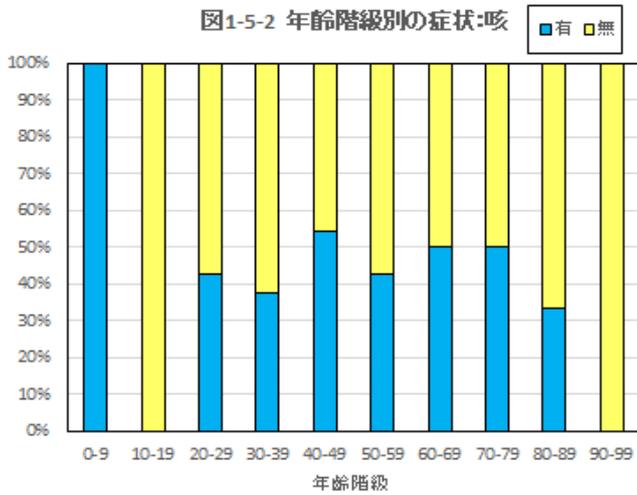
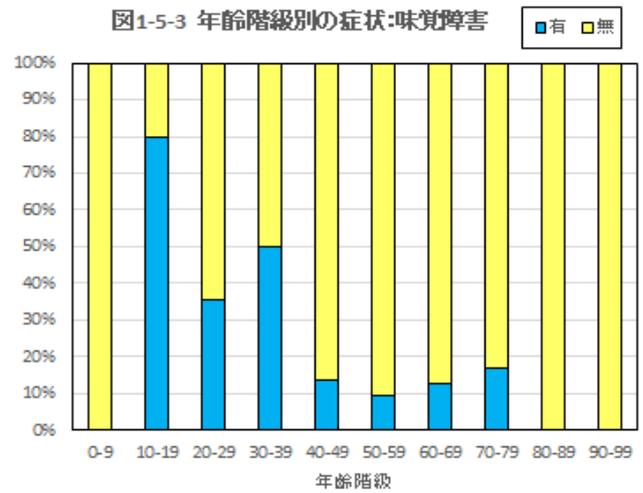


図1-5-3 年齢階級別の症状:味覚障害



年齢層	発熱	咳	味覚障害	倦怠感	嗅覚障害	急性呼吸器症候群	頭痛	重篤な肺炎	息切れ	下痢	食欲低下	咽頭痛	鼻水	その他	なし
0-9	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10-19	1	0	4	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
20-29	9	6	5	1	1	1	2	0	0	2	0	2	0	4	0
30-39	5	3	4	0	2	1	1	0	2	0	1	0	1	1	0
40-49	21	12	3	2	4	2	0	0	1	0	0	0	0	3	1
50-59	19	9	2	5	2	3	2	1	0	0	0	0	1	4	0
60-69	7	4	1	2	0	1	1	1	0	1	2	0	1	3	0
70-79	4	3	1	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0
80-89	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
90-99	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
100-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有	71	39	20	13	10	9	7	3	3	3	3	3	3	19	1
無	18	50	69	76	79	80	82	86	86	86	86	86	86	70	88
発生率	79.8%	43.8%	22.5%	14.6%	11.2%	10.1%	7.9%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	3.4%	21.3%	1.1%

表3 症状別(重複あり)

## ・ウイルス検査

千葉市環境保健研究所では、2020年第17週(2020年4月26日時点)までに1987例(検体数2166)について新型コロナウイルス感染症の検査を実施しました。搬入された市中感染・輸入例疑い事例は1753例(うち陰性化確認等111例)となっており、その他クルーズ船関連事例191例(うち陰性化確認126例)、その他陰性化確認等43例の検査を実施しました。

そのうち、陰性化確認等111例を除いた市中感染・輸入例疑い事例1642例(検体数1770)について(図2-1)は、陽性は94例(陽性割合:5.02%(94/1642)でした(図2-2)。陽性94例のうち、男性は58名(61.7%)、女性は36名(38.3%)で、年齢階級別では、50歳代及び40歳代(共に22名:23.4%)、20歳代(14名:14.9%)の順で多くなっています(図2-3)。

図2-1 新型コロナウイルス感染症市中疑い事例PCR検査数

(千葉市:4月26日現在 n=1642)

(クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く)

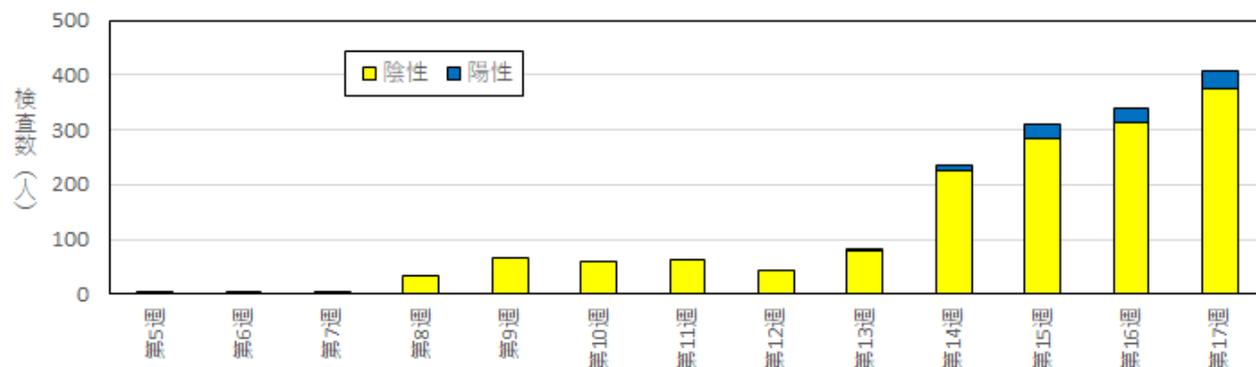


図2-2 新型コロナウイルス感染症市中感染疑い事例PCR検査状況

(年齢階級別 千葉市:4月26日現在 n=1642)

(クルーズ船乗客等関係者及び陰性化確認検査を除く)

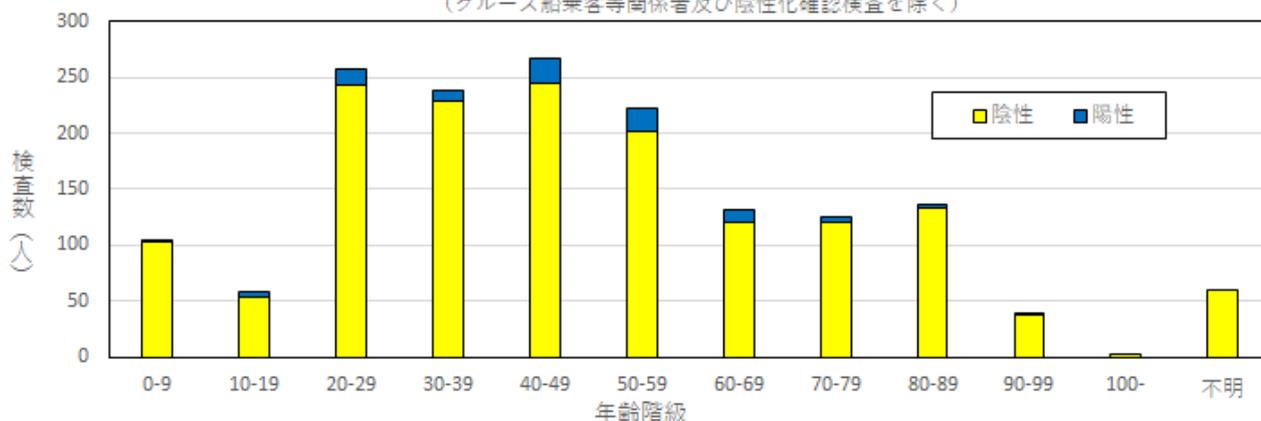


図2-3 新型コロナウイルス感染症市中陽性者

(性別及び年齢階級別 千葉市 4月26日現在 n=94)

